

授業の玉手箱

「よい授業」についての一考察 中垣 芳隆

「よい授業」という言葉を聞いて、皆さんはどのような授業をイメージされますか。

先日、他大学の友人が、「良い授業の原理・原則を考える」材料として、学生達に尋ねた「高校時代の良かった授業」についてのアンケート結果を送ってくれました。ランダムに抜粋しますと、

- ・ 時間通りに終わる。
- ・ 教師と生徒がたくさんコミュニケーションがとれる。
- ・ すごく厳しく予習チェックを行い、それを発表する場が多い授業。緊張感がある方が身がひきまします。
- ・ 先生の人生経験が豊富で話を聞いているだけで、勉強になり、楽しく感じた。
- ・ 豆知識や身近な経験を話してくれる授業。
- ・ 問題の答がわからないとき、友人と相談したり、先生に質問することが許される授業。
- ・ 先生が勉強の仕方を教えてくれる。こう考えればこんなに簡単に解けるんだよ。
- ・ 現代文：先生が、毎回授業の初めに本の紹介をしてくれた。それによって、私も本を読むようになった。
- ・ 現代社会：自分たちが生きていく上で必要なものを探す授業。先生も各地を回っていろいろなことを調べているような人でした。
- ・ 英語：提示された課題への発問に対し、当たっていた時は誉めていただき、間違っていた時には更にアドバイスをいただいた。
- ・ 英語：先生が一人一人の生徒の発表に対して、短くてもコメントしてくれた。(great, good)
- ・ 数学：生徒がわからなそうにしている時には、無理に質問をせず、ヒントを与えたり、前時の内容の復習をしてくれる。
- ・ 英語：補足や小話など、様々な外国の知識を教えてくれて、とてもためになった。答のわからない生徒には、その生徒に応じたヒントを出し、答を引き出していた。
- ・ 英語：学びたいと思わせる雰囲気や自然と作り出せた先生の授業。
- ・ 地理：課題と説明のバランスがよく、あきない授業。
- ・ 英語：単語テストや様々な小テストを作ってくれる。生徒のことをとても熱心に考えてくれる先生の授業。

等々となっています。

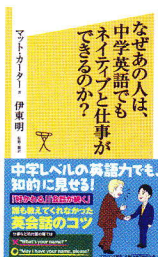
敢えてキーワードを拾い出しますと、「熱意」、「生徒のため」、「厳しさ」、「誉める」、「時間を大切に」、「小話」、「飽きない授業」、「先生の人柄」等でしょうか。

こうして見ると、「よい授業」の要素については、今も昔も、教える側と教わる側の認識にも大きな変化がないように思われますが、いかがでしょうか。

書籍紹介

『なぜあの人は、中学英語でもネイティブと仕事ができるのか?』

マット・カーター(著) 伊東明(監修・翻訳)
2013. ソフトバンク新書 798 円 246 ページ



日本の英語教育は「英語下手」を大量生産しているとしばしば批判される。子どもの頃には外国にあればどこがれを持っていた人たちが、学校を出る頃にはすっかり英会話恐怖症になってしまう。なぜ、このような事態になってしまったのだろうか。

ひとつの原因として学校の授業での制約があげられる。日本のように集団クラスで外国語を教える場合には、往々として、「形式(語彙、

文法など)」の提示、説明が授業の中心となり、形式の果たすコミュニケーション上の「機能」を体得させるだけの練習時間がとれないのである。

しかし、原因はそれだけではない。そのような練習不足の結果、日本人が英語にたいしてすっかり自信を失い、心理的な劣勢に追い込まれているのではないだろうか。その結果、英語をさらに遠ざけるといふ悪循環が生み出されているのだ。

本書は、このような英語下手な国民に「心理学的な」側面から活力を与えようとして書かれた本である。日本の英語教育に詳しい著者と心理学を専門とする監修者が企画立案段階から協力して作成したものであるという。著者は、「完璧な英語」を話さないと恥ずかしいと思う日本人特有の心理を指摘し、言葉の正確さだけにこだわるのではなく、豊かなコミュニケーション技術を習得することの大切さに目を向けるように説得する。そして、有意義なコミュニケーションを成立させる要因が言語以外にあることを具体的に示していく。

平易な説明と例文で書かれた一般書であるが、様々なレベルの英語学習者に勇気を与えるとともに、英語教員にとっても production 活動をデザインする際の指針となる一冊である。

(寺 秀幸)

教育実習参観

本学の教職課程を移行措置として履修している大学4年生や科目履修生のうち8名が5月末を皮切りに教育実習に赴いた(8月末から赴く学生もいる)。数校訪れ、授業を見学させていただいた。実習生の授業展開には改善の余地が見られたが、その時点で持てる力を懸命に出していた。教室の全生徒がよく見えるようにと教壇の椅子の上に立ってフラッシュカードを使って単語の発音練習をしたり、教科書本文を一文ずつ短冊にタイプ打ちしたカードの束をベアごとに配付して正しい順に並べ替えをさせたりと、生徒の学習意欲を高めようと懸命に授業に打ち込む姿があった。そうしたひたむきさは大切である。一生懸命授業に取り組む教員・教育実習生を生徒ははっきり見抜く。そういう熱心な先生に生徒は心を動かされる。指導技術だけでなく、熱い気持ちが生徒の学習意欲を生み出す原動力の一つとなる。(な)



編集後記 / 第 18 回勉強会案内

ロンドン・オリンピックが始まる。Global Competition の舞台の一つであろうか。そう言えば、文部科学省も経済産業省も「国益に資する」を枕言葉にグローバル人材の育成を急務としている。地球市民という基盤発想ではない。それでも地球が一つになって集う競技会、ひたむきに人間の力を見せてくれる選手を応援したい。

*** 第 18 回勉強会「英語の教え方教室」***
2012 (平成 24) 年 10 月 20 日 (土) 14:00 ~ 17:00
「大阪女学院大学教職フィールドワーク課題研究発表」

今回の勉強会では、教職フィールドワーク英国に参加した学生が課題研究発表を行い、現場の先生にも役立つ英語教育情報を提供するとともに、現地資料で作成した教材も紹介する予定である。学生の新鮮な感覚でまとめた課題研究に対し、参加者の皆様から建設的なコメントをいただければ幸いです。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp